

一九八七年八月二十五日  
発行



第70卷 第5号 史学・地理学・考古学

論 説

- 近世中期京都の都市構造の転換……………塚 本 明 ( 1 )
- タバコ植民地経済の展開……………和田 光 弘 (45)  
——独立革命への経済的前提——
- 七月王政期の自由正統王朝派とナシオン……………上 垣 豊 (78)

研究ノート

- 世紀転換期におけるギムナジウムと教養市民層……………望 田 幸 男 (108)

書 評

- 鈴木良著『近代日本部落問題研究序説』……………今 西 一 (129)
- 渡辺信一郎著『中国古代社会論』……………葭 森 健 介 (138)

紹 介

- 藤木久志著『戦国の作法——村の紛争解決——』(橋本道範)
- 北岡伸一著『清沢冽』(伊藤之雄)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

氏は清沢の理念を評価し、理念の欠如した大衆は、大新聞を日米協調批判に傾かせることなどを通して日米協調破壊の二因を作ったと論じているが、それは果して事実であろうか。

筆者がこれまで兵庫県但馬地方などをフィールドとした研究（拙著『大正デモクラシーと政党政治』山川出版社、一九八七年の二部参照）や自治体史編纂を通して調査してきた結果によると、大衆は確かに一貫した理念に乏しく、日常は現実利益的で現状追隨の傾向が強いが、全体として当初から日米協調破壊の強い意志をもっていったとは思われない。日米協調破壊の元凶は、帝国大学や軍関係の学校出身の、清沢と対立する理念をもった各界のエリートインテリ層に求められるべきである。多くの大衆は理念の可否を考える余裕もなく日々の生活のために権力をもった彼らに追隨せざるを得なかったとみるほうが事実に近いのではないか。北岡氏が清沢の言動の真意を理解するため言論統制を考慮に入れた厳密な史料批判を行おうとしているのに対し、大衆の言動理解に対しては本格的なそれを伴った分析がなされていないのは片手落ちでは

ないかと思われる。

また清沢の活動で問題にされるべきことは、日米協調の理念の内容もさることながら、昭和恐慌に打ちのめされた大衆にどれだけの共感をもって又は共鳴を得られる方法でそれを論じたかではなからうか。本書の北岡氏の記述からはそれがうかがえないし北岡氏も特に問題としていない。大衆への共感の姿勢が弱いという点は、清沢が疑問を示した幣原喜重郎や同じ民政党内閣の中心閣僚であった井上準之助ら日米協調の理念をもったエリートインテリ層に共通して見られる現象である。むしろ日米協調破壊の理念をもったグループのほうが大衆の苦悩に共感を示す（少なくともポーズだけでも）傾向が強い。今後このあたりの問題も含めて政治が論じられるべきであろう。

本書を読んで、清沢が評論家として活動した時代について、北岡氏が体承だった政治外交史の著作を著すことを楽しみに思ったことを最後に記して筆を擱きたい。

（新書版 二〇二頁 一九八七年一月  
中公新書 五二〇四）  
（伊藤之雄 京都大学人文科学研究所非常勤講師）

日本学術会議では、特別委員会が追加設置され、活動を開始しました。また、現在第一四期（昭和六三年七月二二日より三年間）会員の選出手続きが進められています。今回の「日本学術会議だより」では、これらの概要に加えて、来年度に開催される共同主催国際会議及び研究連絡委員会報告等についてお知らせします。

◇マン・システム・インターフェース  
（人間と高度技術化社会）特別委員会  
日本学術会議は、昭和六二年四月の第一〇二回総会において新たに「マン・システム・インターフェース（人間と高度技術化社会）特別委員会」を設置した。

◇日本学術会議会員選出制度  
学術会議は、二一〇人の会員をもって組織されているが、その会員は次の手続きにより選出（推薦）される。現在第一四期会員（任期：昭和六三年七月二二日から三年間）を選出（推薦）するための手続きが進

められているところである。

(手続概略)

1 会員の候補者を選定し、及び推薦人(会員の推薦に当たたる者)を指名することを希望する学術研究団体は、日本学術会議に登録を申請する(昭和六二年六月三〇日締切り)。

申請する場合には、その学術研究団体の目的とする学術研究の領域と関連する研究連絡委員会を届け出なければならぬ。届け出られた研究連絡委員会が『関連研究連絡委員会』(3参照)である。

関連研究連絡委員会により区分された学術研究の領域(以下「学術研究領域」という。)ごとに、会員の候補者及び推薦人を届けることとなる。

2 日本学術会議会員推薦管理会は、この申請を審査し、その学術研究団体が所定の要件を満たすものであるときは、関連研究連絡委員会その他の事項を登録する。登録された学術研究団体が「登録学術研究団体」である。

3 登録学術研究団体が届け出た関連研究連絡委員会が複数あるときは、日本学術会議会長は、登録学術研究団体の意見を

聴いて関連研究連絡委員会を限定(指定)する(一一月三〇日まで)に指定)。

4 登録学術研究団体は、その構成員である科学者のうちから、会員の候補者を「学術研究領域」ごとに選定し、日本学術会議に届け出る(昭和六三年二月一日締切り)。

5 日本学術会議会員推薦管理会は、届け出られた会員候補者が会員の資格を有する者であるかどうか認定する。

6 登録学術研究団体は、その構成員である科学者のうちから、推薦人を「学術研究領域」ごとに指名し、日本学術会議に届け出る(二月二〇日締切り)。

7 推薦人は、「学術研究領域」ごとに、日本学術会議会員推薦管理会が会員となる資格を有すると認定した会員の候補者のうちから、会員として推薦すべき者及び補欠の会員として推薦すべき者を選考・決定する(五月中旬〜六月上旬)。

8 推薦人は、会員として推薦すべき者及び補欠の会員として推薦すべき者を、日本学術会議を経由して、内閣総理大臣に推薦する(六月中旬)。

9 内閣総理大臣は、その推薦に基づいて、

会員を任命する(七月二二日)。

◇昭和六三年度共同主催国際会議

本会議は、昭和二八年以降毎年おおむね四件の学術関係国際会議を関係学術研究団体と共同主催しているが、昭和六三年度は次の四国際会議を我が国において開催することとした。(昭和六二年六月一六日(火)閣議了解)

国際家族法学会第六回世界会議

開催期間：昭和六三年四月六日〜二二日

開催場所：日本大学会館(東京都)

共催団体：日本家族へ社会と法学会

第九回世界地震工学会議

開催期間：昭和六三年八月二日〜九日

開催場所：ホテルニューオオタニ(東京都)

都)、国立京都国際会館(京都市)

共催団体：土木学会、日本建築学会、土

質工学会、日本機械学会、地

震学会、震災予防協会

第八回国際内分泌学会議

開催期間：昭和六三年七月一七日〜二三

日

開催場所：国立京都国際会館(京都市)

共催団体：日本内分泌学会

第五回国際植物病理学会議

開催期間…昭和六三年八月二〇日～二七日

日

開催場所…国立京都国際会館(京都市)  
共催団体…日本植物病理学会、日本植物

防疫協会

◇地区会議活動について

日本学術会議は、全国を、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の七ブロックに分け、「地区会議」を組織している。

これらの地区会議は、運営審議会附置広報委員会の下に置かれ、学術会議の各部・委員会等の活動状況を各地区内の科学者等に周知し、また、学術会議に対する意見、要望を汲み上げて、学術会議と科学者との意志疎通を図るとともに、地域社会の学術の振興に寄与することを目的としている。

紹介

各地区会議は、原則として、当該地区に居住、あるいは勤務している学術会議会員の中から各部(第一部～第七部)一人ずつ計七人をもって構成することとされているが、該当する会員全員を構成員としている地区も多い。また、部によっては、該当する会員のいない地区があり、その場合には

研究連絡委員会委員を構成員としている。

各地区会議は、構成員である会員の中から代表幹事一人(関東地区のみ二人)を選び、その主宰者としている。

さらに、各地区会議には、その活動に関する事務を処理するために、「地方連絡委員」を置いている。この地方連絡委員には、北海道地区会議は北海道大学、東北地区会議は東北大学、中部地区会議は名古屋大学、近畿地区会議は京都大学、中国・四国地区会議は広島大学、九州・沖縄地区会議は九州大学の事務局長以下六～一〇人の職員が委嘱されている、各地区会議は、これらの各大学事務局職員の多大な協力の下に運営されているのである。

各地区会議は、前述の目的を果たすために、科学者との懇談会・学術講演会等の開催、地区会議ニュースの発行等の事業を活発に行っている。先般、運営審議会で決定された今年度の各地区会議事業計画によると、全国各地で、科学者との懇談会は二二回、学術講演会は一四回それぞれ開催される予定である。

編集後記

さわやかな秋となりました。七〇巻五号をお届けします。今回は国史の論説一本と西洋史の論説二本に、研究ノート、書評、紹介を加え、バラエティ豊かな内容となりました。十分にご吟味下さい。ぜひぶん発行が遅れましたが、史学研究会大会・総会にはなんとか間に合いました。ぜひ多数ご参集下さいませようお願ひいたします。季節の好転とともに原稿の集まりも回復しつつありますが、各位の一層積極的なご投稿を心待ちにしております。

(秀)

一九八七年八月二五日印刷  
 一九八七年九月一日発行  
 定価一〇〇〇円  
 送料五〇円

史林 第七〇巻第五号(通巻第三四五号)  
 京都市左京区吉田本町  
 京都大学文学部

発行人 史学研究会  
 振替京都七二五二五番

理事長 藤 縄 謙 三  
 京都市下京区七条御所ノ内中町五〇

印刷所 中村印刷株式会社

# THE SHIRIN

or the

## JOURNAL OF HISTORY

---

Vol. LXX No. 5      September 1987

---

### CONTENTS

#### Articles :

- Changes in the Structure of *Kyoto* 京都 City during  
the Middle of the Early Modern Period .....*A. Tsukamoto* ( 1 )
- The Economic Development of Tobacco Colonies :  
The Preconditions for the American Revolution .....*M. Wada* ( 45 )
- Les légitimistes libéraux et la Nation  
sous la monarchie de Juillet .....*Y. Uegaki* ( 78 )

#### Note :

- Gymnasium und Bildungsbürgertum in  
der Jahrhundertwende .....*Y. Mochida* (108)

#### Book Reviews :

- R. Suzuki, An Introductory Study of *Buraku* 部落  
Problems in Modern Japan .....*H. Imanishi* (129)
- S. Watanabe, The Ancient Chinese Society .....*K. Yoshimori* (138)

#### Miscellaneous :

---

*Published*

*by*

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386—9369